

論文

堀場雅夫の教育論

— 堀場雅夫から堀場厚へと引き継がれる教育思想を中心として —

守屋貴司*

要旨

本論文では、第一に、堀場製作所の創業者である堀場雅夫の著作やブログから堀場雅夫の教育思想について解明・考察をおこなっている。そして、第二に、堀場雅夫が尽力した大学コンソーシアム京都の起業人材育成・高等学校コンソーシアム京都や京都まなびの街生き方探究館の創設から堀場雅夫の教育思想について深く論究をおこなっている。第三には、現堀場製作所会長の堀場厚氏の活動や著作、そしてヒアリング調査から受け継がれた教育思想の神髄に迫る。

キーワード

堀場雅夫, 堀場厚, 教育論, 人材育成, 起業家教育, 京都

目次

序章

第1章 堀場雅夫の教育論—堀場雅夫の著作とブログから—

第2章 堀場雅夫の多彩な京都の人材教育・起業教育への関与

—京都大学コンソーシアムの起業人材育成と京都高校コンソーシアムなど—

第3章 堀場雅夫と京都まなびの街生き方探究館

第4章 堀場雅夫から堀場厚へと引き継がれる教育思想

—堀場厚の教育論：堀場厚の活動と著作，ヒアリング調査より—

(1) 堀場厚の活動・著作から見る教育思想

(2) 堀場厚へのヒアリング調査から知る受け継がれる教育思想

むすび

* 立命館大学経営学部 教授

序 章

堀場雅夫に関しては、筆者は、これまで二つの研究論文と一つの研究ノートをまとめてきた。筆者は、まず、これまで世間ではあまり知られてこなかった堀場雅夫の堀場製作所の社長退任後（社長退任後、同製作所の会長・最高顧問となる）のソーシャルイノベーターとしての姿を、拙稿（2020）「堀場雅夫による産官学連携のイノベーション創生—KRP・ASTEM・JANBOの立ち上げと展開を中心として—」『立命館経営学』第53巻第3号と題して論じた。また、堀場雅夫の晩年期のビジネス書のベストセラー作家としての姿、そして、堀場雅夫のビジネス書の検討を通して、堀場雅夫の経営哲学について、拙稿（2021）「堀場雅夫のビジネス書研究—堀場雅夫の経営哲学—」『立命館経営学』第54巻第1号において、深く論じることができた。そして、第三論文では、「堀場製作所」の創業者である堀場雅夫から事業承継者たる堀場厚の二人の現代事業承継史の分析を通して、堀場製作所の前身である「堀場無線研究所」の創業から堀場製作所への成長、堀場雅夫の社長退任、そして、その子、現会長の堀場厚の誕生から幼年期、青年期、社長就任に至る「昭和、平成の堀場製作所と堀場親子の物語（事実）」をナラティブに論じた拙稿（2021）「現代事業承継史研究—堀場製作所を事例として—」『立命館経営学』第54巻第2号を著すことができた。それぞれの論文や研究ノートでは、これまで堀場雅夫を論じた評論や研究とは異なる視点から論じることができたと自負している。

本論文は、筆者の「堀場雅夫研究」としての四つ目の研究論文である。これらの研究論文や研究ノートは、旧来からの学術研究の系譜でいえば、経営者史研究に位置づけられるものであるといえよう。とはいえ、堀場雅夫は、これまでの論文と研究ノートにて、論述してきたように、その人生において、スタートアップの経営者、ベンチャー企業経営者、上場大企業経営者、ベストセラー作家、産官学連携の社会イノベーターと実に多面的な要素を内包している¹⁾。それゆえ、堀場雅夫を論じる時、経営者としての歴史というにとどまらず、ベストセラー作家の側面やソーシャルイノベーターの姿も、論じなければならない。そして、この論文で論じるのは、堀場雅夫の教育改革者の姿であり、堀場雅夫の教育思想についてである。堀場雅夫の教育思想は、今日の企業の人材開発や能力開発、さらには日本の家庭や社会での教育のあり方にも繋がるものでもあり、まだ日本がなしていない根本的な教育改革にも繋がるものである。そこで、本論文では、堀場雅夫の教育思想に焦点をあてて論じることにしたい。

堀場雅夫の教育思想は、まず、堀場雅夫の著作やブログから垣間見ることができる。また、そうした教育思想に基づく「堀場雅夫の教育改革者の姿」は、京都において、京都大学コンソーシアムの推進や京都高校コンソーシアムの推進、そして、社会人向けの起業人材育成、京

都情報大学院大学の設立援助などからみることができる。また、2007年、85歳の折には、「京都まなびの街生き方探究館」を創設し、初代館長に就任し、小中学生が就業や経済の仕組みについて体験を通じて学ぶ施設を作り上げ、その運営に努めた。そして、堀場雅夫は、2008年、83歳の折には、京都大学総長顧問に就任している。

そして、堀場雅夫からその事業承継者である堀場厚（現堀場製作所代表取締役会長兼グループCEO）に受け継がれた教育思想には、今こそ学ぶべき点が多数ある。そこで、本論文では、第一に、堀場雅夫の著作やブログから堀場雅夫の教育思想について解明・考察をおこなうことにしたい。そして、第二に、堀場雅夫が尽力した京都・大学コンソーシアムの起業人材育成・京都高校コンソーシアムや京都まなびの街生き方探究館の創設から堀場雅夫の教育思想に分け入ることにしたい。第三には、現堀場製作所会長の堀場厚氏の活動や著作及びヒアリング調査から受け継がれた教育思想の神髄に迫ることにしたい。

まず、堀場雅夫の教育思想に関する代表的な著作やブログなどから堀場雅夫の教育論（教育思想）について紹介することにした。

第1章 堀場雅夫の教育論 —堀場雅夫の著作とブログから—

堀場雅夫は、2001年に、PHP出版した堀場雅夫（2001）『「好き」にまかせろ！—子どもを幸せにする教育論』では、体系的に自らの教育論について論じている。

本書では、21世紀の日本を担う人材を育成するためのそれまでの戦後の日本の教育を根本的に変えることを提唱している。

本書の紹介文では、「著者の堀場雅夫氏は、『イヤならやめろ！』『仕事ができる人できない人』などのベストセラーを著した話題の経営者であり、歯に衣を着せない本音で綴った内容が、多くの読者の共感を呼んだ。本書の内容は教育論ではあるが、21世紀の日本を担う人材を育てるためには、現代の教育の在り方を変えねばならないことを具体的に指摘する。例えば、『一流大学の卒業生に品質保証書は付いていない』『日本には大学は一つあれば充分』『リストラの対象になるような人間を育ててはいけない』『がまんして学校へ行くぐらいならやめてしまえ』『教育は品質管理ではない』など、現代教育の問題点や実社会とのギャップを根拠を添えてズバリ指摘する。本来、教育とは子どもを幸せに導くものであると主張する著者が、そのためには、家庭や学校の教育がどうスタンスを変えなければならないか、また、変えなければ日本の明るい未来のないことを明確に説き明かす衝撃の書！²⁾」と紹介されている。そして、この紹介文から見るように、本書は、日本の家庭や企業、社会のあり方、日本的雇用のあり方にまで言及し、それら全ての変革を通しての日本の教育から人材育成の抜本的な改革についても言及している点に大きな特徴がある。

堀場雅夫は、晩年の 80 歳代で、「堀場雅夫のブログ」という形で、その中で、多く、自らの教育論を発信している。80 歳代で、功なり名遂げた人物が、ブログを綴るというのも、新しい物好きの堀場雅夫らしいところである。堀場雅夫は、ブログの中で、ブログを始めた訳について、次のように綴っている。

「私がブログを始めた訳

この度、『ブログ』なるものを始めることとしました。

私はブログという存在が最近おおいにはやり、多くの人達が日々の日記や情報、考えを発信していると言うことは知っていました。しかし、私はそれについて『何でわざわざ自分の行動を WEB で発信しなあかんのや』と、冷ややかに見ていました。

しかし、私はメディアの可能性を信じている人間でもあります。そう見ると、パソコンのキーボード操作があまり得意でない私にも簡単に更新できるブログというツールは、何か新しい媒体として活用できるのでないか、という気もしているのです。

そんなことを考えていた折、私に『ブログをやってみようかな』と思わせる機会がありました。私は、様々なところで講演をさせていただく機会も多く、これまでに多くの著書も出しており、私がどのような考えでベンチャーを語り、京都を語り、そしていかに生きているかを十分に世に発信しているつもりでいたのですが、まだまだ不十分であると感じる折があったのです。

そこで、これまでとは違った角度から情報発信をしていこうと考えた折、このブログが頭をよぎりました。そして『やってみようかな』と思ったのです。

このブログでは、私が日頃から考えていることを中心に書いていこうと思いますが、日々のちょっとした出来事やエピソードなども紹介していきたいと思っています。もちろん、堅苦しいことを書くつもりはありませんし、私のモットーである『おもしろおかしく』暮らしていくための皆さんのヒント集としてご活用いただければ幸いです。

どうぞ、お気楽におつきあいいただければ幸いです。³⁾」(「堀場雅夫ブログより」2008年2月12日 11:25 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/02/post.html>)

このブログから堀場雅夫が、まだまだ「言いたりなかった点」を綴ることを目的にブログを始めたことがわかる。堀場雅夫の多くの著作も基本は営利出版であり、基本、出版社は、本が売れて利益をえなければならず、堀場雅夫の言いたい本音を語り得なかった点があったであろう。すなわち、上記のブログで堀場雅夫が綴ったことは、「まだまだ言い足りない本音の点」をブログに綴りたかったと言えよう。それ故、堀場雅夫のブログからは、営利出版を超えた本音を探ることにしたい。そこで、堀場雅夫の教育論について、「堀場雅夫のブログ」から詳細

に紹介・分析することにした。

まず、堀場雅夫が、日本の教育に大きな問題を感じるキッカケともなったのが、企業の経営者目線からの日本の大学、大学院教育の劣化である。日本の大学教育、大学院教育の劣化について、「堀場雅夫のブログ」で、次のように綴っている。

「大学教育と企業教育

企業の本来の役割とはなんでしょうか。様々にありますが、その一つに一定の教育を受けてきた人材に、その能力に応じた具体的な行動を起こさせて、付加価値を生むシステムです。

ところが、今の学校や家庭、あるいは社会でそれまで受けてきた教育を現在の企業サイドから見ると様々な欠陥があります。本来の教育がされておらず使い物にならないので、仕方なく、企業の中で教育をしなければならないのです。あいさつの仕方まで、会社で教えている状況です。

大学教育のレベルも疑いたくなる事態があります。大学院のレベルの低下です。

最近では、ドクター過剰という問題が起こっています。文部科学省が予算をつけて、多くの大学でマスター、ドクターコースができています。その一方で、ドクターの就職難が生じています。会社にも「ドクターを採れ」とうるさく言われます。しかし、学部卒生に比べて5年間も勉強ばかりしているはずなのに、とにかく能力がない。論文を読む速度も遅い。

では、なぜそうになってしまうのか。かつてであれば、自分が研究を深めたいテーマを持って、それを指導してくれる先生の教室に行きました。ところが今は『就職するのも気が進まない』とマスターへ行き、『このまま就職しても今ひとつだな。あと3年』とドクターへ行く。そしてその間も、先生から与えられたテーマの研究を進める。これは、会社の食堂で『今日はカレーだ』と、食べたくもないのに仕方なく出されたから食べる、というようなものでしかありません。さらに、自分が書いた論文が、その論文がその分野の研究のポジションや果たした役割などを理解していないケースもあります。

特別な学者で特別な研究をして、ノーベル賞級の研究をする人もいます。しかし、日本の国力を維持し、発展させるための専門教育、高等教育について大学だけに任せて、もし、企業が真剣に教育していなかったら、日本のレベル、国力はすごく落ちていると思います。⁴⁾」（堀場雅夫のブログより <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/05/>）

堀場雅夫は、日本の家庭、社会、学校の教育に、様々な欠乏がある点を大きく指摘している。その上で、日本の大学教育、さらには、大学院教育にフォーカスをあて批判し、日本のマスター（修士）、ドクター（博士）が、使用者にならないことを辛辣に批判している。今日でも、日本の文部科学省によって、ドクター教育の強化・拡大が図られているが、その点をまさに、

2008 年時点で強く批判したのである。日本の今の大学院教育がダメな点として、自分が研究を深めたいテーマを研究するのではなく、先生から与えられたテーマの研究をいやいやするためであると厳しく批判している。

これまでの私の堀場雅夫研究から堀場雅夫が、新しい研究発見やイノベーションは、「自分のやりたいこと、好きなこと」であるからこそ達成することができ、それが、「人の幸せ」であるという深い哲学と価値観を有している点を指摘してきた。また、堀場雅夫は、『「好き」にまかせろ！—子どもを幸せにする教育論』の中で、バブル経済崩壊後、いち早く、「いい学校、いい大学、良い会社」に入れば、一生安泰という日本の終身雇用システムが崩壊しつつあることを見抜き、これからの価値創造社会においては、「好きなこと」をやるのが、個人の幸せとなり、日本社会の発展に繋がると論じている。

次に、「堀場雅夫のブログ」よりそうした 21 世紀の価値創造社会に適応するような堀場雅夫の考える「日本人のあり方」についてみることにしたい。

「好きこそものの上手なれ

メジャーリーグのイチローのように、国際社会で活躍する日本人が増えてきました。国際社会で活躍している人は、ある意味で好き嫌いや生き方がはっきりしていると思います。『とにかくアメリカで野球をするんだ。年俸なんて関係ない』など、目的意識や価値観がはっきりしています。

彼らの大活躍のおかげで、個性や価値観という言葉でなくても、『僕は僕でいいんだ』というような社会になってくる可能性があります。

今までの日本人は、自分を過小評価していた傾向が強かったように感じます。日本人は、他流試合をしないから、自分を本当に評価するというか、そういう機会が少ないのではないかと思います。

1 億 2000 万人の日本人のほとんどが、自分の力の限界を知らずに死んでいっているのではないのでしょうか。またそのような場に自分を持っていくということすら、あまりにもデンジャラスでやっていない。私は、100% とまでとはいませんが、せめて 90% ぐらいは、その力を出してみてもらいたいと思います。

意図を持って自分の能力を発見していく方法というものがあれば、人間は変われると思います。その一つは、やっぱり好きなことをすること。好きなことなら、自分の能力の限界に相当近づけるのです。

そして、それぞれのジャンルで、多様なサクセスストーリーが必要だと思います。⁵⁾」(堀場雅夫のブログより 2008 年 7 月 29 日 11:46 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/07/post-12.html>)

この「堀場雅夫のブログ」から 21 世紀の価値創造社会に適応するような堀場雅夫の考える「日本人のあり方」を見ることが出来る。それは同時に、グローバル社会に適応できる日本人材を育成することでもあろう。

堀場雅夫は、米国のメジャーリーグにいったイチローを例にとり、日本人はこれまで好きな事を選択して仕事をしてこなかったから自分の能力の 10% 程度しか発揮できずにいたので、これからは好きなことを主体的に選択することで自分の能力の限界まで挑戦できるようになると説いている。

日本の文部科学省と県の教育委員会に縛られた小中高教育、さらには劣化した大学、大学院教育でだめになり、終身雇用制度で、自分の好きなことにも挑戦しない日本人のこれまでのあり方を否定し、21 世紀型のグローバル社会に通用する日本人になるための「あり方」を説いたと言えよう。

そうした好きなことに挑戦し、100 パーセントの力を発揮する日本人を育成するための教育において、堀場雅夫は、ティーチングプロとしての教育者を育成する必要性を説いている。

「教育者はティーチングプロの自覚を！」

高校・大学になると、自分の好きな専門分野がある程度分かってきます。そうすると、その分野におけるいいティーチングプロにつくことが大事です。そうすれば、素晴らしいプロフェッショナルになれます。

ゴルフにも、ティーチングプロとツアープロというのがあります。あのタイガーウッズでさえ、ティーチングプロがいるのですよ。

ティーチングプロはツアープロよりも上手いかというと、決してそんなことはありません。ただし、教えることについてはプロフェッショナルなのです。

大学の先生も一緒です。その生徒よりも潜在能力は低いかもしれませんが、ティーチャーとして立派な方はおられます。教える能力のない人がいっぱい教授にいるから、それでダメなんです。研究者として立派でも、教える能力がなかったら、大学は成り立ちません。

ティーチングプロの質という意味からは、私は初等教育の現場ほど人間的にも能力的にもスケールのにも優れた人材がいて欲しいと思います。そういう意味において、小学校の低学年では、本当に社会的に酸いも甘いも知った年配の先生が教えるべきではないでしょうか。

仕事の場合も同様です。その人の資質に不向きな部門に配属されたら、どんないいティーチングプロがつこうが、その人はもう二流、三流で一生終わってしまうでしょう。そんな人が、世の中にごまんといます。

小さいときに、自分は一体何が得意なのかということを知覚させてもらえるようなエデュースを受けた人間というのは、得をしています。

教育現場にはそのような先生がいないわけではありません。しかし、少ないように思いません。⁶⁾」(堀場雅夫のブログより 2008年10月27日 11:49 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/10/post-14.html>)

堀場雅夫は、日本人が、前述したような好きな専門分野の能力を伸ばすには、ティーチングプロが必要であることを指摘している。まず、堀場雅夫は、大学の教員に目を向け、大学の教員は、研究のプロであっても、教育のプロとなっていないことを厳しく指摘している。確かに、大学の教員採用では、主として、研究のプロとして採用される。模擬講義を採用時に求められるケースもあるが、その模擬講義のレベルが採用後も担保される保証はない。採用後の大学教員は、主として、転職時に有利に働く自らの研究業績づくりに傾注する。これでは、日本の大学において、ティーチングプロは育たないであろう。堀場雅夫は、「研究者として立派でも、教える能力がなかったら、大学は成り立ちません。」と指摘し、大学においても系統的にティーチングプロの育成を提唱している。

また、堀場雅夫は、特に、日本においてティーチングプロが必要なのは、初等教育であることを指摘している。初等教育では、知育のみならず、徳育を伸ばす必要があるし、小学生時代に「好きなこと」に出会えることはその後の人生を決める大きな方向性ともなるからである。

次に、「堀場雅夫のブログ」より堀場雅夫が、子供たちの「好きなことの発見」に絡めて、「ゆとり教育批判」をしている点について目を向けることにしたい。

『ゆとり教育』の疑問

今、揺り戻しが来て見直しが進められていますが、教育の現場では『ゆとり教育』が言われていました。これは、『学習者が詰め込みによる焦燥感を感じないように、自身の多様な能力を伸長させることを目指す教育理念』で、これにより学習指導要領が改定され、授業時間の削減、学習内容の簡易化、完全週休二日制などが実施されてきました。

しかし、私はこれはとてもナンセンスなことだと思いますし、はじめから反対していました。

そもそも、シビアな人がホッと一息を着くための『ゆとり』という発想を小学生に対して導入することはおかしい。むしろ私は、もっと基礎をしっかりやれといていたのですが。

結局、これにより失われた何年間があります。本当に怖いことです。

最近『理科離れ』といわれます。しかし、私が感じるのは、『離れるも何も、本質的に理科をやっていないではないか』ということです。『食わず嫌い』という言葉がありますが、まさにこれと同じではないでしょうか。

ちゃんとした料理を食べて『これは私の口に合わない』と判断するのであればいいのですが、ろくな料理を食べさせないで『好きではない』というのはどうかと思います。

小学校では、一通りのメニューを食べさせないといけないのです。そしてその中から『先生、私はこれが好き』『これはどうしてもあわない』と本人が感じ取ることが大事だと思うのです。

人間を製品のように機械的に品質管理をすれば、優れた人間になるという考えは間違いです。人間には個性や感情があり、好きなことなら苦に感じずにとことんやり遂げるという素晴らしい特性を持っています。そういう特性を伸ばすことが、本来の教育ですよ。

これがあった上での『ゆとり』だと思うのです。学校で学んだものについて、少しでも興味を持てれば、自分で図書館に行ったり、関連する本で勉強もできる。

私の場合は、もともと理科が好きでした。そして学校の教科書だけでは物足りなくなり、本を読んだり、模型の本を買って自分で飛行機を組み立てたりしていました。さらに、当時は各クラスに数名のインターン（師範学校の学生）がいましたので、その先生が色々と教えてくれたのです。

音楽の先生はピアノや歌を、理科の先生は様々な実験を、歴史の先生は歴史を、と自分が関心を持った分野の先生の所に行けば、色々と教えてくれたのです。このような出会いから学んでいくことが大事で、『これをやらないと大学には入れない』というような押しつけは、根本的にその子供がかわいそうです。

音楽に関心を高めた私の同級生は、その後も音楽の道を進み、現在もピアノの先生となっています。⁷⁾（「堀場雅夫のブログ」より 2008年4月21日 11:39 <https://www.goodkyoto.com/joyfun/2008/04/post-7.html>）

紹介した「堀場雅夫のブログ」では、日本の「ゆとり教育」を批判し、「好きなこと」、「好きなもの」に出会うためには、初等教育時代に、様々なことやモノに出会う機会を教育者が与えることが大切であることを、堀場雅夫は力説している。「好きなこと」や「好きなモノ」に出会うことで、主体的に、人間は成長するのである。堀場雅夫は、「人間には個性や感情があり、好きなことなら苦に感じずにとことんやり遂げるという素晴らしい特性を持っています。そういう特性を伸ばすことが、本来の教育ですよ。」とその点を、このブログで指摘している。

堀場雅夫の考える21世紀型のグローバル社会・知識創造社会に通用する日本人になるための教育を図式すると下記のようなろう（図1）。

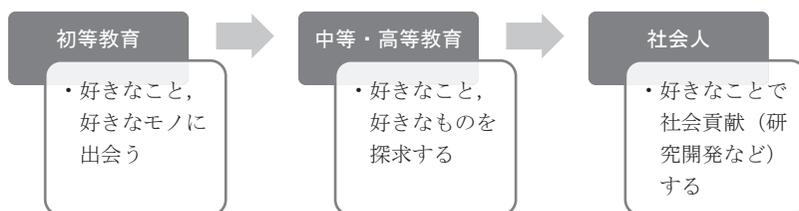


図 1 21 世紀型のグローバル社会・知識創造社会に通用する日本人になるための教育
(筆者作成)

21 世紀型のグローバル社会・知識創造社会は、これまでの日本の大量生産・高品質・低価格のものづくりとは異なり、破壊的イノベーションによる高付加価値のシェアリングエコノミー、定額制エコノミーといった全く新しい社会へと転換しつつある。その中で、日本だけが、旧来型の大量生産・高品質・低価格のものづくりではとても世界的競争には勝てないし、また、そのような日本の大量生産・高品質・低価格のものづくりに適応的な日本人ばかりでは、日本にも日本人にも未来がない。この点は、堀場雅夫 (2001) 『「好き」にまかせろ！—子どもを幸せにする教育論』PHP 出版でも繰り返し論究されている点でもある。

21 世紀型のグローバル社会・知識創造社会では、堀場雅夫の指摘するように、イチローのように「好き」を極めることが、日本人一人一人、日本企業にも求められている点である。狭い領域であっても、「好き」を極めた日本人や日本企業が今、世界で輝きを増している。「好き」を極めた日本人としては、「イチロー」のみならず、安藤忠雄、ノーベル賞を受賞した山中教授をはじめ、数々の日本人の名前を挙げることができよう。

では、堀場雅夫が理想とする教育を、どのようにして実現しようとしたのかについて、次は、「堀場雅夫のブログ」より目を向けることにしたい。

「団塊の世代こそ、小学校で教えて欲しい

小学校の教育は大事です。そして、教師そのものも非常に大事です。

私は、教員免許の国家試験に通ったら、ただちに先生になれるということには、絶対に反対です。特に小学校の先生には、団塊の世代や世の中のことを色々知っている人になって欲しい。本当に基礎になる社会での経験が豊富な人が教えた方が良い。あるいは語学のようなものは、英語の先生ではなく、海外勤務をしていた人に教えて貰う方が良い。

というのは、それぞれの事象についてそれがどういう意味かと言うことを教える側が理解していなければいけないからです。ただ『覚えなさい』と暗記するようなものでは無いはずなのです。

理科にしても、本当に興味がある子供に教科書通り暗記させるだけでは、興味を失ってしまうかもしれない。『世の中ではこのように使われている。その大本の原理がこの教科書に書か

れている。だから勉強したらいいよ』と言ってあげることができれば、興味もわいてくるでしょう。それを、大学出たての教員にさせようとしても、難しいのではないのでしょうか。

歴史も同じです。年号を覚えるだけでは、面白くありません。そうではなくて、当時の時代背景はこうで、こういう勢力があり、このような経過を経てこうなった、と聞くと興味も沸くでしょう。結果としての事実を覚えなさいと言うだけでは、面白くもありません。

一人ひとりの人間が、自分はどう生きるか、どういう人生を送りたいかを考えることは、生まれてきたことに対する真摯な関わり方だと思ふのです。それが、「こうやればあなたは成功者ですよ」といった線路が社会によって引かれていて、その上をひたすらに、いかに速く、しかも完璧に進ませるのかというのが、戦後の教育だったと思います。

本来、教育とは子どもを幸せに導いてやるためのものです。⁸⁾」（堀場雅夫のブログより 2008年10月23日 11:48 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/10/post-13.html>）

堀場雅夫は、教育改革の担い手として、早くから定年退職をした団塊の世代や社会経験豊富な社会人に目をむけている。その理由は、上記の「堀場雅夫のブログより」書かれているように、堀場雅夫は、「それぞれの事象についてそれがどういう意味かと言うことを教える側が理解して」いるような経験豊富な世代が児童や学生に教える方が、子供や学生に「おもしろおかしく」教えることができるからである。そして、堀場雅夫は、今なお、日本で幅をきかせている暗記教育では、児童や学生は「好きなこと」や「好きなもの」を発見することはできないし、「一人ひとりの人間が、自分はどう生きるか、どういう人生を送りたいかを考える」機会などを与えることはできないと考えたのである。

堀場雅夫の凄いところは、このように新しい教育のあり方を考えるだけでなく、団塊の世代や社会人が子供に実際に「教える場」を作りあげた点がある。この「教える場」とは「京都まなびの街生き方探究館」である。この「京都まなびの街生き方探究館」については、本論文の第3章において詳しく論述することにした。

以上のような堀場雅夫の教育論（教育思想）からの堀場雅夫の「人づくり」すなわち教育、人材育成について、次の第2章では見ることにしたい。

第2章 堀場雅夫の多彩な京都の人材教育・起業教育への関与 —京都大学コンソーシアムの起業人材育成と京都高校コンソーシアムなど—

まず、堀場雅夫の人材育成・起業教育としては、京都大学コンソーシアムの「京都起業家学校」がある。

財団法人大学コンソーシアム京都が作られた後、この大学コンソーシアム京都をベースに、

堀場雅夫が初代校長となり、「京都起業家学校」を開講している。この「京都起業家学校」は、定員枠 50 人弱で KRP、ASTEM と 財 大 学 康 索 ー シ ア ム 京 都、京 都 ソ フ ト ア プ リ ケ ー シ ョ ン、京 都 市 の 5 者 で 共 同 運 営 を し て い る。こ の 「京 都 起 業 家 学 校」は、半 年、ス タ ー ト ア ュ ッ プ を 志 望 す る も の が 学 ぶ も の で、卒 業 時 に A ラ ン ク の 人 は 1000 万 円 の 融 資 を 無 担 保 補 償 で 受 け ら れ る 仕 組 み と な っ て い る⁹⁾。

堀場雅夫は、京都大学学生時代に、堀場製作所の前進である堀場無線研究所をスタートアップさせたことが有名である。それだけに、堀場雅夫は起業で苦労をかなりしてきたので、まず、堀場雅夫が手をつけたのが、「京都起業家学校」であった。京都起業家学校は、苦労する起業家をサポートして、堀場雅夫が愛する京都を、スタートアップベンチャーの日本のみならず世界の「中心地」にするという夢があった。そして、起業家は、自らの「好きなこと」、「好きなもの」を研究開発し、それを製品化し、広く社会・世界に貢献を目指すモノであった。

また、堀場雅夫が尽力したのが、高等学校コンソーシアム京都の創設である。

「京都市立高等学校では、高等学校におけるキャリア教育の一層の推進が求められる中、生徒の将来の進路目標に応じた特色ある教育活動を実践展開し、その期待に応えてきています。

高等学校コンソーシアム京都では、インターンシップの推進、社会人講師及び大学教員の招聘など、産業界と高等学校との連携、大学と高等学校の連携を中核的事業として、市立高等学校で学ぶ生徒の勤労観・職業観や進路意識の高揚、起業家精神の涵養を目指し、「産学公」連携を推進してまいりました。今後も当コンソーシアムは、産学公連携の要として関係機関と市立高校をつなぎ、多機関協働による新たな学びの創出や、探究活動の取組・実践を市立高校全体に広げていきます。¹⁰⁾」 <http://www.h-consortium.jp/about/index.html>

このような高等学校コンソーシアム京都の創設では、「インターンシップの推進、社会人講師、産業界と高等学校との連携、市立高等学校で学ぶ生徒の勤労観・職業観や進路意識の高揚、起業家精神の涵養」など産学連携を当初より目指しており、堀場雅夫はその点について、尽力をした。そのため、高等学校コンソーシアム京都創立 10 周年記念では、来賓などの挨拶の後、堀場雅夫が、「特別記念講演」をおこなっている。

また、堀場雅夫は、京都情報大学院大学の設立にも設立発起人として貢献している。このことについて、堀場雅夫は、京都情報大学院大学創立 10 周年記念式典にて、下記のように当時を述懐している。

「ちょうど 21 世紀に入ったころから、専門職大学院を作ろうという動きがございました。そのとき現学院長の長谷川靖子さんがお越しになり、京都に情報系の専門職大学院第一号をぜひ創りたいと熱心にお話しされました。私もそれにほだされまして設立の発起人の一人としてお受けいたしました。当時は同様の学校を作る動きもあり、一方におきましては相当な反対も

ございました。この反対者を一人ひとり説得いたしまして、無事、2003年に京都情報大学院大学が誕生いたしました。まさに日本で第一号の大学でございました。

それから早10年。京都情報大学院大学があるということは、単に京都コンピュータ学院の関係者のみならず、京都市民にとっても、府民にとっても誇らしいことであると思います。

長谷川靖子さんがFORTRAN研究会を作られた1963年当時、ロサンゼルスではスモッグによる大気汚染が問題になっていました。その原因は自動車の排気ガスであるということから、私どもの会社は自動車の排気ガスを測定するという仕事を始めました。

これは非常に精密度を要し、様々な種類のガスを定量的に分析するためには複雑な計算が必要になります。しかし、その計算のソフトウェアを作ることは私どもの専門外ということで、大型のコンピュータを作っている会社にその仕事を依頼いたしました。

ところが、なかなかできません。『どうしてだ』と突っ込んでみると、なんと、そこはギブアップして長谷川さんのところへそのソフトを持ち込んでいたということでした。

結果的に長谷川さんに我々の分析系のデータ処理のソフトを全て作っていただきました。

それは非常に素晴らしく、日本中はおろか世界中で爆発的にその機械が売れまして、大変私は恩義を感じております。

その後、学生や入社する人々の教育等につきましても大変なご支援をいただきました。当時、だんだんとコンピュータが一般化されてきて、大学でもそのような学部、学科、あるいは講座が開かれてまいりました。その卒業生を採用するわけですが、その人たちは理屈こそ言うのですが、実際には、全然オペレーションはできないし、ソフトウェアも作れないのです。

『これはなんとかしないとイケない』と思いました。

当時、よく言われていたことですが、情報系だけでなく、電子工学科を卒業した人が半田付けができない、機械工学科を卒業した人がフライスや旋盤を使ったことがない、など、サイエンスとテクノロジーのギャップが大変大きかったのです。

そのようなことを長谷川さんと話していましたら、『いや、そのとおりです。我々の建学の精神は正に、理論と技術そしてフィロソフィー、この三つが揃わないと完全なものではできない、というものです』とお話しされました。

正に、それは私がずっと思い続けた考えと全く一致いたしました。そういう意味におきまして、私は長谷川さんのお仕事がどんどん伸びていったことを大変うれしく思います。その建学の精神はずっと50年間、京都コンピュータ学院のフィロソフィーとなり、そして新しく10年前に誕生した京都情報大学院大学のフィロソフィーにもつながっているということで、この事業がこれからもますます、日本だけでなく世界的に広がっていくことを期待しています。

最後に一つお願いしたいことがございます。それは先ほどのビデオでも見ていただいたように、1963年以降、日本国内外で作られたコンピュータが、京都コンピュータ学院に多数保存

されていて、これをぜひコンピュータミュージアムとして公開したいと考えております。

京都の宝、京都の名所として、これをもっともっと一般の方々に見てもらえるように、そしてこれからこの関係の仕事をする人たちの大いなる刺激になるように、立派なミュージアムができたらいいと思っております。どうか本日ご参列の皆様におかれましては、このコンピュータミュージアムの建設につきましてもご支援を頂戴いたしたく存じます。」(<https://www.accumu.jp/vol22-23/KCG> 創立 50 周年 / 記念式典 / 祝辞堀場雅夫様 .html より 2021 年 9 月 3 日閲覧・確認¹¹⁾)。

この堀場雅夫の京都情報大学院大学の創立 10 周年の記念式典の挨拶からも、堀場雅夫の「教育論」の片鱗を読み解くことができる。挨拶の中で、「当時、だんだんとコンピュータが一般化されてきて、大学でもそのような学部、学科、あるいは講座が開かれてまいりました。その卒業生を採用するわけですが、その人たちは理屈こそ言うのですが、実際には、全然オペレーションはできないし、ソフトウェアも作れないのです。」と堀場雅夫は指摘している。この点は、今なお日本の情報系の大学や大学の学部の特徴でもあり、即戦略とならない人材を育成している側面を鋭くついている。

さらには、「当時、よく言われていたことですが、情報系だけでなく、電子工学科を卒業した人が半田付けができない、機械工学科を卒業した人がフライスや旋盤を使ったことがない、など、サイエンスとテクノロジーのギャップが大変大きかったのです。」との指摘には、情報系と機械・電気系の融合といった課題やサイエンスとテクノロジーといった今日の日本の理工系の大学教育にも通じる点が内包されている。

その上で、この挨拶の中に、堀場雅夫の教育論の真髄とも言える指摘がある。それは、「理論と技術そしてフィロソフィー、この三つが揃わないと完全なものではできない」という点である。ここでの技術とは、「半田付け、フライスや旋盤、プログラミング、SE」など即戦力となる技能を含んだモノであろう。フィロソフィーとは、堀場雅夫が各種の学会に招聘されて語ってきた歴史的・世界的な規模で俯瞰的、科学的かつ抽象的な視点で見る力であり、視点であったと言えよう。

このように、堀場雅夫の教育実践は、起業家育成、高校の産学連携教育、実践的な情報系教育と多岐に及んでいる。共通している点は、「京都という場」を舞台としている点である。京都は、京都大学をはじめとした多数の高等教育・研究機関、世界有数の企業、伝統文化を支える寺社仏閣などがひしめきあっており、科学と技術、そして、アート、文化の融合の地である。しかも、京都は、伝統を大切にしながら常に最新の科学、技術、文化、アートを求めている。京都は、産官学公連携の最適の地であったとも言えよう。

第3章 堀場雅夫と「京都まなびの街 生き方探究館」

次に、堀場雅夫の教育実践として、「京都まなびの街 生き方探究館」について紹介することにした。「京都まなびの街 生き方探究館」も、京都を舞台に、産学公連携の下に、子供たちのために作られた「学びの場」である。

まず、「京都まなびの街 生き方探究館」の歴史的展開について、堀場製作所のホームページから紹介することにした。

京都市教育委員会「京都まなびの街 生き方探究館」は、産学公連携の下、小・中学校の年代から子どもたちに勤労観、職業観を育む「生き方探究教育（キャリア教育）」を推進する目的で、2007年に設立されました。堀場製作所創業者の堀場雅夫が初代館長に就任し、2010年から2015年までは名誉館長を務めました。

生き方探究館には常設コーナーとして「京都モノづくりの殿堂」があり、京都のものづくり企業（17社）の創業者・科学者等の努力や情熱、最新の先端技術などをパネル展示や体験型ブースで紹介しています。

HORIBA ブースでは、堀場雅夫の創業ストーリーの紹介と、放射温度計での温度測定体験を楽しんでいただけます。また、同館内の「ものづくり工房」では、各企業によるものづくり実習の授業が行われており、HORIBAの社員やOBによる温度計制作の授業も実施しています。

2020年には、代表取締役会長 堀場厚が館長に就任しました。子どもたちが最先端の技術や、京都のものづくり企業の創業者の生き方、情熱にふれることを通して、自身の将来や夢について考えを深め、その実現にむけて意欲を持つための一助となるよう、同館での展示や工房学習に積極的に協力していきます¹²⁾。

<https://www.horiba.com/jpn/company/social-responsibility/social/social-activities/support-for-the-development-of-societys-next-generation/>

「京都まなびの街 生き方探究館」のコンセプトには、堀場雅夫の教育思想がよく現れている。堀場雅夫の教育思想の反映としては、第一に、子供たちが最先端の技術に触れて、「凄いなあ」、「面白いなあ」、「なぜだろう」、「深く知りたい」という好奇心を刺激されて、生涯探究

できる課題を、発見することができることが重要であろう。さらに、第二に、京都のものづくり企業の創業者の生き様を学ぶことで、「良い学校→良い大学→良い企業や官僚」といった旧来型の日本サラリーマン的生き方以外の「生き様」を学ぶことができるようになってきている。これも、21世紀のイノベーションの時代を見据えて、堀場雅夫が、日本も根本的に、旧来型の日本サラリーマンのロールモデルから起業家を目指すロールモデルへ転換すべきであると考えていたことも反映しているだろう。そして、第三に、工房学習などの体験ができる点も、「体験学習」を重んじる堀場雅夫の教育思想にも通じる点である。これは堀場雅夫の幼少体験からくるものであるが、子供心に深く根をおろすのは、机上の学びではなく、見て、体験して、惹きつけられる体験であるという点である。第四に、第1章で紹介したように、堀場雅夫は、子供への教育を、単に教科書通りに暗記させる教員より人生経験が豊富な社会人が行うべきであると考えていた。この「京都まなびの街 生き方探究館」では、人生経験豊かな京都のものづくり企業のOBや社員が子供たちに対応し、導いている。まさに、堀場雅夫の理想を体現した「学びの場」である。

第4章 堀場雅夫から堀場厚へと引き継がれる教育思想

—堀場厚の教育論：堀場厚の活動と著作、ヒアリング調査より—

(1) 堀場厚の活動・著作から見る教育思想

堀場雅夫の教育思想は、堀場製作所の事業承継者であり、堀場雅夫の子息である堀場製作所現会長の堀場厚に引き継がれている。

端的にそのことをあらわす事象としては、前章で紹介をした堀場雅夫が事業創造支援をし、初代館長になった京都市教育委員会が運営する教育施設『京都まなびの街生き方探究館』の館長に、堀場厚が2020年4月に就任している。そして、堀場厚が、2020年10月に同館を訪問した堀場製作所のホームページの記事が下記である。

「堀場厚、生き方探究館館長として同館を初訪問

2020年10月13日、京都市教育委員会が運営する教育施設『京都まなびの街 生き方探究館』を、堀場厚（堀場製作所会長兼グループCEO）が訪問しました。同館は、産学公連携のもと、小・中学校の年代から子どもたちに勤労観、職業観を育む『生き方探究教育（キャリア教育）』を推進する目的で2007年に設立され、初代館長を堀場製作所創業者の堀場雅夫が務めました。今年4月には堀場厚が同館の館長に就任し、今回が館長として初めての訪問となりました。また、同館の『京都モノづくりの殿堂』内にあるHORIBAブースもリニューアルしました。『京都モノづくりの殿堂』は、京都のモノづくり企業17社の創業者などの生き方やモノづく

りにかける情熱，最新の製品・技術などをパネルや製品見本などで紹介されています。

今回のブースリニューアルでは，生き方探究館職員の皆様にもご助言いただき，創業者 堀場雅夫のモノづくりへのおもいや，堀場製作所のあゆみや事業について，子どもたちがより理解しやすい言葉やイラストを使いながら，視覚的にも分かりやすくなるように工夫しました。ブース内では，HORIBA 製品である放射温度計を使ったゲームを体験することもできます。今後も HORIBA は子どもたちが多様な体験を通して多くのことにチャレンジし，個性的な夢を描き，未来を切り拓いていけるようサポートしていきます¹³⁾。(https://www.horiba.com/jpn/company/about-horiba/horiba-talk/detail/news/10/2020/堀場厚生き方探究館館長として同館を初訪問 / より)」

同館の堀場ブースのリニューアルでは，「創業者 堀場雅夫のモノづくりへのおもい」の紹介もあり，意義深い展示へと発展している。

また，堀場厚は，京都の産学公で組織された「京都教育懇話会」の会長を引き受けて，京都の教育発展に貢献されている。「京都教育懇話会」について，堀場厚は，「現在，私たちをとりまく環境はかつて無いスピードで変化しており，その中で様々な課題が浮き彫りとなってきています。これらを突き詰めていくと，その多くの根源に『人』というキーワードが見えてくるのではないのでしょうか。様々な問題に対応するには，必ず『人』としての力が求められ，またグローバル化が進む中では，国際社会で対応できる『日本人』としての力も試される時代に入ってきています。

この『人』というキーワードに対して私たちがなすべきことは子どもたちへの教育，真の人づくりです。その実現のためにはまず，行政，教育機関，地域，企業，メディア等が幅広く分野を超えて協力し，議論する場が必要ではないかと考え『京都教育懇話会』を立ち上げるに至りました。お互いがお互いを非難し，単に評論するだけの時代は去りました。

本懇話会では本音ベースでの議論を深め，それを具現化することによって，確かな日本の未来を築いていければと心より願っております。経験のない新しい試みではありますが，志の旗高く邁進し，より一層多くの方のご支援，ご協力を賜りたいと存じます¹⁴⁾。」と教育について熱く語っている。

堀場厚も，堀場雅夫の教育思想を受け継ぎ，「人」の教育，人材育成にフォーカスをして社会実践を展開している。堀場厚は，その著作でも，「人材の『ザイ』の字に財産の財の字を当てています¹⁵⁾」と指摘している。

そして，堀場厚は，「私が『人財教育』で心がけているのは，その人の目に見えない部分を伸ばす教育。そのためには，当人の行動を生み出している人間性にフォーカスをあてて教育しています。

いまの教育は，試験の点数など，目に見えるものばかり追い求める教育です。もちろん，こ

うした結果も大事なのですが、やはり土台は人間性だと思います¹⁶⁾。」とその著書で指摘している。

堀場雅夫と堀場厚の共通の教育論・教育思想は、「人」、特に、「人の人間性」にフォーカスして、「自由闊達」に人が「好きなことを好きなだけ探求して」生きることを大切にしている。「自由闊達主義」は、堀場雅夫の父、堀場厚の祖父である京都帝国大学教授（大阪府立大学初代学長）であった堀場信吉の教育方針でもあった¹⁷⁾。

堀場雅夫から堀場厚に引き継がれる教育思想としては、「人の個性」を大切にするという点もある。個性が強い人材とは、ともすれば「変わり者」ということでともすれば、同質同調を好む日本社会や日本の組織では、「村八分」にされかねないが、堀場雅夫も、堀場厚もそうした人材を大切にした。

堀場厚は、その著作でも、あえて、自分の確固たる考えや信念を持った個性的な変わった人材を「特別枠」で採用しているエピソードを紹介し、こう述べている。

「わが社では、こうしたリスクを背負える個性的な人物、いってみれば、『変わった奴』を採用するため、特別枠を設けています¹⁸⁾。」

堀場厚は多種多様なリスクを背負える人材こそ、自分の確固たる考えや信念を持った個性的な変わった人材であり、採用すべき人材としている。

堀場雅夫も、その著書、『出る杭になれ！「いい人」をやめれば仕事ができる』祥伝社で、日本人の周りの目ばかり気にする特徴を批判し、あえて、出過ぎる杭になることを提唱している。

(2) 堀場厚へのヒアリング調査から知る受け継がれる教育思想

2021年10月1日午後2時30分から午後3時30分、堀場製作所、本社において、堀場厚会長より半構造化調査法に基づいて、ヒアリング調査を行い、堀場雅夫から堀場厚会長にまで引き継がれる教育思想について直接、お聞きすることができた。

このヒアリング調査において、堀場雅夫の父、堀場厚会長の祖父にあたる堀場信吉の「自由闊達主義」の真髄についての指摘において刮目すべき点があった。

堀場厚会長は、「自由闊達主義」は、単に「自由にする」ことではなく、「自由にする」ことに伴う「自分のリスク」をとる責任を担うことと、「自分が選択をしたこと」に伴う「大変さ」を担うことを包括する概念であるという点を指摘した。そして、堀場信吉は、堀場雅夫の創業における「自由」を認めつつ、そのリスクや大変さを理解して乗り越えることを含めて、「自由闊達主義」と捉えていた。誰も指示され、人に命令されて行うことは嫌であるが、「手を

あげて」始めた以上は、それを遂行し、やり遂げる責任を担う責務がある。

堀場厚会長「自ら手をあげた人にチャンスにあたえるというのはとても大切なことです。こうしろ、ああしろと言うとやらされ感が生まれ、それにエクスキューズ（excuse：弁明する、言い訳する）ができます。一方で、手をあげた以上は自分で100パーセントのリスクをとらなければならない。自分の選択ですからね。やらされるのでは色んなエクスキューズができるし、色んな不満もできてくるんですね。手をあげるということはとても大事なことで、手をあげた人に私もチャンスを与える。父（堀場雅夫）を創業した以上はそう簡単に大学（母校・京都大学）に帰るといふわけにはいかなかった。帰るポジションもあったでしょうが、それをあえてしなかったのは、自分で創業したからだからと思いますね。」

と述べておられる。

これは、まさに、自由のジレンマであり、今日の教育が、ともすれば、自由ばかりを強調する故に、「リスクと責任」という点を十分に教えていない点を痛感させられる点でもある。「自由闊達主義」の背後に、自主的に選択する自由とそのリスクと責任を担う厳しさがあることを、学ばせてもらった。

この「自由とリスク & 責任」の関係性は、堀場製作所の社是である「おもしろおかしく」に通じるものであり、今日では、「Joy and Fun」として、世界の中で、認められるものとなっている。

ヒアリング調査では、堀場厚会長は、2019年12月17日に、京都市立朱雀第一小学校での講演とその後での交流体験から日本人の小学生がもつ感性の豊かさについて言及された。特に、交流体験で小学生からの質問された内容がユニークで、幅が広く、発想が深い点を指摘された。

小学生の豊かな感性が受験一辺倒の教育の中で、失っていく指摘は、前述した堀場雅夫の教育思想に重なるものである。堀場厚会長は、人間としての豊かさは、スポーツもする、勉強もする、好きなこともする、そうした自らの体験の中で養われると述べられた。

そうした人間としての豊かさを養うことを日本、特に、京都で再生するためにも、前述した「京都教育懇話会」を堀場厚会長は立ち上げられたといえよう。

そして、このような時代において、堀場厚会長は、個性的な人材を「やんちゃ」という言葉で表現された。

堀場厚会長「うちは、そんな『やんちゃな奴』でないと生産に携わったり、開発に携わったりしてできない。そして、今、HORIBAで一番利益をあげているのはがそうしたやんちゃな奴

がいたグループ会社なのです。これからやんちゃな人材をどれだけ育成できるかということです。」

「やんちゃ」という言葉は、ビジネス的な言葉ではないが実に造詣が深い意味がこめられている。「やんちゃ」なビジネスパーソンにまで繋がる「やんちゃ」な子供，学生をどう育てるかは大きな応用問題である。そのヒントは，堀場厚会長の言葉にあった。

堀場厚会長「我々自身がやんちゃでないとやんちゃは育てられない。そこでは遊び心が大切です。」

と述べられた。教える側が，挑戦する心や，面白いことを楽しむゆとりをもってこそ，「やんちゃ」の個性的な人材を育成できるといえよう。

堀場雅夫から堀場厚会長への引き継がれ方としては，堀場雅夫の「良き批判者」として堀場厚会長がある。それは異なる角度から教育思想も，事業承継もおこなってきた点がある。堀場厚会長は，堀場雅夫を学者として規定し，堀場雅夫の学者としての特徴を「好きなことを好きなだけ探究した点」と指摘している。そして，堀場雅夫は最後まで良い意味で学者であったと指摘している。

堀場厚会長「経営者は，好きなこと以外もいっぱいやらないといけない。それがバランスということです。経営者は社会の変化に順応していかなければならないので順応しなければならないのです。」

と述べておられる。

堀場雅夫の教育思想は，学者タイプとして，「好きなことを好きなだけ」探究する純粋な心を提唱されたが，堀場厚会長では，そうした「好きなことを好きなだけ」探究する純粋な心に加えて，「バランス感覚」を加えたといえる。前述した『京都まなびの街 生き方探究館』においても，幼いうちから様々なことに興味をもつ，「バランス感覚」を養うことの大切さを重視している。

堀場厚会長『京都まなびの街 生き方探究館』は，社会ってどのように動いているの？，親は自分たちが学校にいけるようにどのように一生懸命働いているの？ということのを少しでもわかるということは子供たちにとって大切だと私は思います。自分たちの仕事を活かしながら，貢献できることが本当のメセナだと思います。」

と述べておられる。

また、堀場厚会長は、昨今のコロナ禍の下でのオンライン教育にも言及され、オンラインと対面式のハイブリッドの大切さを指摘された。

堀場厚会長「フェイ・トゥ・フェイスがやはり重要です。顔色を伺うという言葉はネガティブに受け取られがちですが、とても大切なことで、非言語的などころで相手にいろんなことを伝えているのです。言葉って実はほとんど聞き流しているのです。オンラインでは先生の本気度や、先生が本当に言いたいことが伝わりきらないことがあります。今でも、（コロナ感染症対策のため）フェイス・トゥ・フェイスでの授業が制限されつれいいますので、ある程度、関係性ができたうえで、オンラインで行うのは凄く効率がいいですね。

フェイス・ツウ・フェイスも物理的限界がある。それゆえ、フェイス・ツウ・フェイスとオンラインの組み合わせ、ハイブリッドがいいですね。」

と述べておられる。五感を大切にされた堀場雅夫の感性教育に加えて、堀場厚会長は、オンラインのハイブリッドの有効性と限界を指摘し、上手くそれぞれを組み合わせた新しい教育創造を提唱された。

以上、堀場厚会長へのヒアリング調査を通して、堀場雅夫の教育思想が、堀場製作所の事業承継者であり、堀場雅夫の子息である堀場製作所現会長の堀場厚に引き継がれ、進化・発展してきたことを確認すると同時に、多くの新たな発見をすることができた。

むすび

以上、堀場雅夫の教育論と教育思想、さらには、堀場雅夫から堀場厚へと引き継がれる教育思想について論じてきた。

堀場雅夫の教育論・教育思想は、堀場雅夫の哲学と科学、そして、人生から理論作られた面と21世紀に日本が対応すべき課題から理論作られた側面がある。堀場雅夫が、日本機械学会2000年度年次大会で語った「21世紀に向けて企業が望む工業教育」では、人間が五欲に縛られ、種の存続をベースに、それぞれのDNAと後天的な学びと倫理によって規定され存在していると述べている。これは、堀場雅夫の哲学と医学博士と科学からくる人間規定と言えよう。そして、21世紀はイノベーションの世紀であり、創造性が強く求められる時代であり、戦後のものづくりを中心とした大量生産型の日本の教育では通用しない時代であり、日本の子供たちに様々な選択が人生にあることを早い時期から学ばせ、個々の特徴を引き出す教育が必要で

あると説いている¹⁹⁾。

本論文の研究課題としては、第一に、堀場雅夫の著作やブログから堀場雅夫の教育思想について解明・考察をおこなうこと。そして、第二に、堀場雅夫が尽力した京都大学コンソーシアムの起業人材育成・京都高校コンソーシアムや京都まなびの街生き方探究館の創設から堀場雅夫の教育思想に分け入ること。第三には、現堀場製作所会長の堀場厚氏の活動や著作、ヒアリング調査から受け継がれた教育思想の神髄に迫ることにあつた。

本論文において解明しえた堀場雅夫の教育論・教育思想とその教育実践について列挙しておきたい。

堀場雅夫の教育論・教育思想は、俯瞰的に 21 世紀に必要とされる人材を展望し、現在の日本の家庭・地域・学校の教育を根本的に改革しなければならず、21 世紀のイノベティブな時代に相応しい個性溢れる創造的な教育と人材育成が必要である。そのためには、幼少期から様々な人生経験を持つ大人の導きで、色んな体験をして、自分の本当に「好きなこと」を発見し、それを探究していくことができる環境が大切である。高等教育では、哲学といった抽象度の高い学問から実務に結びついた実践型の教育まで、「哲学 (フィロソフィー)、理論、技術 (技能)」の三つを学び、卒業後、新しい生産技術や流通技術、情報革命といった事業創造、イノベーションを引き起こせる人材を教育・育成すべきであるということになる。

そして、堀場雅夫は、このような自らの教育論、教育思想に基づき京都大学コンソーシアムの起業人材育成、京都高校コンソーシアムや京都まなびの街生き方探究館の創設支援などをおこなったと言える。堀場雅夫の教育論・教育思想の大きな特徴は、単に、ブログや著作、講演などで、主張したり、語ったりするだけでなく、新しい組織作りに展開している点がある。堀場雅夫は、主張したり、語るだけでは、社会は 1 ミリも変化しない。しかし、自らの教育・人材育成の理想を反映した組織づくりをすれば、一人の子供や学生、若いビジネスパーソンの未来を変えることができる。それを見抜いた堀場雅夫らしい自らの教育思想の実践であったと言える。

堀場雅夫の教育思想は、堀場製作所の事業承継者であり、堀場雅夫の子息である堀場製作所現会長の堀場厚に引き継がれている。端的にそのことをあらわす事象としては、前章で紹介をした堀場雅夫が事業創造支援をし、初代館長になった京都市教育委員会が運営する教育施設『京都まなびの街 生き方探究館』の館長に、堀場厚が、2020 年 4 月に就任している。また、堀場厚は、堀場雅夫と同じように、京都を舞台に、京都の産学公で組織された「京都教育懇話会」の会長を引き受けて、京都の教育発展に貢献されている。

堀場雅夫から堀場厚に引き継がれる教育思想の真髄は、「人」を大切にし、「自由闊達主義」で、「おもしろおかしく」、好きなことを好きなだけ打ち込んで行くことに価値をおいている点がある。

そして、堀場厚会長のヒアリング調査からその「自由闊達主義」は、単に「自由にする」ことではなく、「自由にすること」に伴う「自分のリスク」をとる責任を担うことと、「自分が選択をしたこと」に伴う「大変さ」を担うことを包括する概念であることを発見した。

また、堀場雅夫から堀場厚に引き継がれる教育思想の真髄としては、「人の個性」を大切にするという点がある。ともすれば、日本人は同質的同調で、自分の個性を殺して、同調してしまう傾向があるが、堀場雅夫はあえて出過ぎる杭になれば、自己主張を行うことを奨励し、堀場厚は、自分の確固たる考えや信念を持った個性的な人材こそが企業のリスクを担える人材として評価している。

そして、堀場雅夫の教育思想は、学者タイプとして、「好きなことを好きなだけ」探究する純粋な心を提唱されたが、堀場厚では、そうした「好きなことを好きなだけ」探究する純粋な心に加えて、「バランス感覚」をあえて加えたともいえる。

謝辞

ヒアリング調査にご協力を賜った堀場製作所の堀場厚会長、堀場製作所の関係各位のご協力の上に、本論文を作成することができた。深く感謝の意を表したい。

<注>

- 1) 堀場雅夫「堀場雅夫」『私の履歴書 経済人 29』日本経済新聞社、参照。
- 2) https://booklive.jp/product/index/title_id/193170/vol_no/001 2021年9月4日閲覧・確認。
- 3) 「堀場雅夫ブログより」2008年2月12日 11:25 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/02/post.html>
- 4) 堀場雅夫のブログより <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/05/>
- 5) 堀場雅夫のブログより 2008年7月29日 11:46 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/07/post-12.html>
- 6) 堀場雅夫のブログより 2008年10月27日 11:49 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/10/post-14.html>
- 7) 堀場雅夫のブログより 2008年4月21日 11:39 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/2008/04/post-7.html>
- 8) 堀場雅夫のブログより 2008年10月23日 11:48 <https://www.goodkyoto.com/joy-fun/>
- 9) 守屋貴司（2020）「場雅夫による産官学連携のイノベーション創生—KRP・ASTEM・JANBOの立ち上げと展開を中心として—」『立命館経営学』第53巻第3号、参照。
- 10) <http://www.h-consortium.jp/about/index.html>
- 11) <https://www.accumu.jp/vol22-23/KCG> 創立50周年 / 記念式典 / 祝辞堀場雅夫様.html より 2021年9月3日閲覧・確認。
- 12) <https://www.horiba.com/jpn/company/social-responsibility/social/social-activities/support-for-the-development-of-societys-next-generation/>
- 13) <https://www.horiba.com/jpn/company/about-horiba/horiba-talk/detail/news/10/2020/> 堀場厚生き方探究館館長として同館を初訪問 / より

- 14) https://kyoto-kyoiku-konwakai.net/konwakai_about/ 2021年9月7日, 閲覧・確認。
- 15) 堀場厚 (2011)『京都の企業はなぜ独創的で業績がいいのか』講談社, 104 ページ。
- 16) 前掲書, 104 ページ。
- 17) 堀場厚 (2014)『難しい。だから挑戦しよう「おもしろおかしく」を世界へ』PHP 出版, 166 ページから 167 ページ。
- 18) 堀場厚 (2011)『京都の企業はなぜ独創的で業績がいいのか』講談社, 120 ページ。
- 19) 堀場雅夫 (2000)「21 世紀に向けて企業が望む工業教育」『日本機械学会 2000 年度年次大会資料集』日本機械学会, 参照。

<参考文献>

- 堀場厚 (2004)『難しい。だから挑戦しよう「おもしろおかしく」を世界へ』PHP 研究所
- 堀場厚 (2011)『京都の企業はなぜ独創的で業績がいいのか』講談社
- 堀場雅夫 (1995)『イヤならやめろ —社員と会社の新しい関係—』日本経済新聞社
- 堀場雅夫・篠原総一 (1996)『ベンチャー魂 日本経済よ, 甦れ ベンチャー魂』PHP 研究所
- 堀場雅夫 (1998)『堀場雅夫の経営心得帖』東洋経済新報社
- 堀場雅夫 (1999)『元気だせ日本人 堀場雅夫と 21 人のベンチャー 元気だせ 日本人』日経大阪 PR 企画出版部
- 堀場雅夫 (1999)『仕事ができる人 できない人 偶然の成功はあっても, 偶然の失敗はない』三笠書房
- 堀場雅夫 (2000)「21 世紀に向けて企業が望む工業教育」『日本機械学会 2000 年度年次大会資料集』日本機械学会
- 堀場雅夫・仲谷彰宏 (2001)『おもしろおかしく』メディアワークス
- 堀場雅夫 (2001)『出る杭になれ! 「いい人」やめれば仕事ができる』詳伝社
- 堀場雅夫 (2001)『出る杭になれ! 「いい人」やめれば仕事ができる』詳伝社
- 堀場雅夫 (2001)『問題は経営者だ!』日経 BP 社。
- 堀場雅夫 (2003)『仕事ができる人—できない人「いい人」は無能の代名詞である』三笠書房
- 堀場雅夫 (2003)『人の話なんか聞くな—少しの勇気でもっと自分を活かせる!』ダイヤモンド社
- 堀場雅夫 (2003)『今すぐやる人が成功する!』三笠書房
- 堀場雅夫「堀場雅夫」『私の履歴書 経済人 29』日本経済新聞社
- 堀場雅夫 (2005)『堀場雅夫の社長学』ワック出版
- 堀場雅夫 (2005)『その他大勢から抜け出す仕事術 —仕事を変える 8 つの時間』三笠書房。
- 堀場雅夫 (2007)『やるだけやってみろ!』日本経済新聞社出版
- 堀場雅夫 (2007)『もっとわがままになれ!』ダイヤモンド社。
- 堀場雅夫 (2007)『仕事ができる人 できない人 100 人の 1 人の人材になる方法「仕事ができる人できない人」』三笠書房
- 堀場雅夫 (2012)『おもしろおかしく生きろ!』PHP 研究所
- 堀場雅夫 (2013)『イヤならやめろ—社員と会社の新しい関係—新装版』日本経済新聞出版社
- 堀場雅夫 (2014)『おもしろおかしく 人間本位の経営』日経 BP 社
- 堀場厚 (2014)『難しい。だから挑戦しよう「おもしろおかしく」を世界へ』株式会社 PHP 研究所
- 守屋貴司 (2020)「堀場雅夫による産官学連携のイノベーション創生—KRP・ASTEM・JANBO の立ち上げと展開を中心として—」『立命館経営学』第 53 巻第 3 号
- 守屋貴司 (2021)「堀場雅夫のビジネス書研究—堀場雅夫の経営哲学—」『立命館経営学』第 54 巻第 1 号
- 守屋貴司 (2021)「現代事業承継史研究—堀場製作所を事例として—」『立命館経営学』第 54 巻第 2 号

Masao Horiba's Theory of Education: Focusing on the Educational Thought of Masao Horiba to Atsushi Horiba

Moriya, Takashi *

Abstract

In this paper, firstly, I elucidate and discuss the educational philosophy of Masao Horiba based on his writings and blogs. Secondly, the paper discusses Masao Horiba's educational philosophy in depth through his efforts in establishing the Kyoto University Consortium for Entrepreneurial Human Resource Development, the Kyoto High School Consortium, and the Kyoto Manabi no Machi Ikikata Tankyu Museum. Thirdly, it examines the essence of the educational philosophy inherited from the activities and writings of Mr. Atsushi Horiba, the current Chairman of Horiba Manufacturing Co Ltd.

Keywords:

Masao Horiba, Atsushi Horiba, educational theory, human resource development, entrepreneurial education, Kyoto

* Professor, College of Business Administration, Ritsumeikan University

